



# 第1回 長崎大学病院 ICLSコース報告書

平成25年8月24日(土)開催

共催: 長崎シミュレーション教育研究会  
長崎大学病院 医療教育開発センター  
協力: 日本光電九州株式会社  
山下医科器械株式会社

## コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

## ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実に行なうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

## 実施結果

受講生12名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター1名、インストラクター3名、アシスタントインストラクター1名、チューター2名)計7名で指導を行い、2ブースを問題なく運営した。※スタッフ詳細はP.4



◆実施内容◆

開催日時	平成25年8月24日(日) 8:20～16:05		
受講者数	12名		
対象	研修医		
場所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、リハビリ室、第四会議室		
<b>スケジュール</b>			
		グループ(1)	グループ(2)
8:00～8:20	0:20	受付	
8:20～8:30	0:10	オリエンテーション	
8:30～9:05	0:35	BLS+AED	
9:05～9:15	0:10	休憩・移動	
9:15～10:15	1:00	気道管理(A)	モニター(B)
10:15～10:25	0:10	休憩・移動	
10:25～11:25	1:00	モニター(B)	気道管理(A)
11:25～12:15	0:50	昼食	
12:15～12:20	0:05	BLS・ALSデモンストレーション	
12:20～13:30	1:10	チーム蘇生(B)	チーム蘇生(A)
		VF/VT	VF/VT
13:30～13:40	0:10	休憩	
13:40～14:25	0:45	non VF/VT (A)	non VF/VT (B)
14:25～14:40	0:15	休憩・移動	
14:40～15:40	1:00	メガコード(A)	メガコード(B)
15:50～16:05	0:15	終了式・修了証授与式	

# 講習会の様子

～午前中～

## 8:20～8:30 オリエンテーション



受付後、コースディレクターの岩本亜津子先生からご挨拶があり、インストラクター、アシスタント、チューターのスタッフがそれぞれ自己紹介。その後、岩本先生から、講習会の流れと注意事項を参加者に伝えました。

## 8:30～9:05 BLSとAEDのスキルセッション



9:15～11:25

BLSが終わったら2グループに分かれて、気道管理、モニター・電気ショックのスキルセッションを行いました。

## <モニター・電気ショック>



まず初めに、岩本先生とALSアルゴリズムをチェック。



全員、今まで電気ショックを行ったことがないので初めは多少緊張していた様子でしたが、すぐに操作に慣れていました。

## <気道管理>



気道管理の要点は、気道確保、換気、酸素投与の3つ。  
換気はバッグバルブマスクを用いて行います。



喉頭鏡ブレード・ハンドル、気管チューブ、スタイレット、バイトブロックなど、気管挿管で使用する器具を、長谷先生から、1つ1つ説明していただきました。



挿管を始める前に、酸素化を十分行います。



声門に気管チューブを挿入していきます。

# 12:15～15:40 チーム蘇生のためのシナリオセッション



シナリオを始める前に、スタッフがデモンストレーション。手際よく、スムーズな流れに、受講者から「おお～！」という感嘆の声が上がりました。



挿管  
します



蘇生成功！



実習は真剣ですが、爆笑するシーンもあり、終始、和やかな雰囲気で行われました。



シナリオを重ねるにつれ、チーム内の息も合ってきて、それぞれの役割もすぐには決まるようになりました。



記録も大事な役割です。



末梢静脈の確保が難しい場合に骨髄路を確保するための、骨髄内輸液針を刺入しています。



休憩時間も自主練習をしていました。



## お疲れさまでした！

朝早くから始まった講習も、いよいよ終了です。各スタッフから、講習会の感想と挨拶がありました。



コースディレクターの岩本先生から、修了証と受講カードが、受講生1人1人に手渡されました。

## ～指導スタッフ～



**大分医療センター  
岩本亜津子 先生**

コースディレクターとして、当院の初開催をサポートしていただきました。



**救命救急センター  
長谷敦子 先生**





←  
医療教育開発センター／消化器内科  
柴田英貴 先生



→  
血液内科  
澤山靖 先生



←  
島根大学医学部  
附属病院  
田下博 看護師



↑  
国際医療センター2  
湯川恵美子 看護師



→  
光学医療診療部  
田中由香 看護師

お世話に  
なりました！

◆アンケート◆  
受講者からの声

実際のシミュレーターで実習を行うことができたので勉強になりました。緊張感のある中で冷静に処置できるようになるにはまだまだ経験が必要だと感じました。

人に指示を出す難しさがわかった。他人のデモを見て自分に活かすことができた。

心停止の患者さんやハリーコールに対して、積極的に治療に飛び込んでいこうという自信がついた。

とても楽しく、勉強になりました。シナリオがいろいろあって飽きませんでした。

とっさに動けるようになった。

一から丁寧に教えていただいて、とても勉強になりました。救急をローテートする前だったので、少し自信がつけました。

想像以上に楽しく、かつ充実した講習を受けることができ、とても有意義な一日になりました。

## ◆アンケート◆ スタッフの声

### 1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・十分でした。
- ・積極的で良かった。
- ・非常によかった。あまりにも仲がよすぎて、ふざけてしまう時があった。
- ・楽しい感じでよかったです。
- ・皆、意欲的だった。
- ・楽しく、生き生きしていました。
- ・意欲が全面に溢れていたと思います。楽しそうでした。

### 2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- ・OKです。
- ・1年次にしては、できていたと思う。
- ・予習してきていると感じた。
- ・勉強していたと思います。
- ・おそらく全員、予備知識あり。
- ・良く勉強できていたと思います。
- ・知識が豊富だったと思います。

### 3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・みなさん熱心でした。
- ・積極的で、アドリブも良い。
- ・的確で、アトラクティブだった。
- ・おだやかで明るく、一緒にやるのが楽しかった。
- ・シナリオの準備など非常によかった。やりやすかった。
- ・頑張っていました。受講生が楽しそうだったので楽しい感じでした。
- ・受講生と、笑顔で楽しく学んでいました。
- ・インストラクションについて勉強になりました。

### 4) 今後について、ひとこと

- ・さらなる発展を予想できます。
- ・継続していきたい。
- ・看護師対象も検討してほしい。

### ●改善点●

- ・ハートシムの故障があり(脈拍触知不可)、残念だった。
- ・(古い)除細動器の心電図モニターの接続コードがないことに前日気づき、急遽借りることになったので、早い段階で確認が必要だった。
- ・シナリオセッションのとき、2グループともシミュレーションセンターで行ったが、ブースを2つに分けたほうがよかったかもしれない。

## 準備する資機材リスト(2ブース分)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	予備の1台を含む
レサシアン	4	1ブースに2
バックバルブマスク	2	
AEDトレーナー	4	複数機種 (うち1台、本物のAEDを日本光電から借用)
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	2	単相性と二相性を1台ずつ (1台は日本光電から借用)
気道管理ボックス	2	各ブースに1箱ずつ
内訳)		
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニューラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	2	各ブースに1つずつ
ワゴン	2	
骨髄針	1~2	日本光電から借用
聴診器	2	
アルコール綿	多めに	
タオル	4	
ホワイトボード	2	
ホワイトボードマーカー4色	8	
ストップウォッチ	2	
メトロノーム	2	
延長コード	4	

**長崎大学病院**  
**医療教育開発センター**

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7881

FAX (095) 819-7882